

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570206748	
法人名	株式会社 メデカジャパン	
事業所名	のしろケアセンターそよ風	
所在地	秋田県能代市落合字古悪土1-228	
自己評価作成日	平成22年7月25日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個々に合った通院介助 ・入退院の対応 ・外出による気分転換 ・温泉 ・食事
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会	
所在地	秋田県秋田市東通3丁目9-31	
訪問調査日	平成22年8月24日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個々の状況を把握され、決して急がず、ゆっくりとしたケアに努められ、「待つ」姿勢の感じられるホームで、利用者のペースを守り、合わせたケアが行われております。各ユニットのリーダーが中心となり、協力体制のもと、職員を育てる取り組みもみられました。また、運営推進会議に消防署員をメンバーとされ、災害時のアドバイスをいただく等の取り組みや水害時の研修やマップの把握等、水害対策への取り組みも強化されておりました。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『住み慣れた地域で最後までその人らしく』というグループホームの明確な理念を作っている。他に系列事業者共通の『そよ風憲章』を持っており、朝礼で唱和する事で体感し、日常的に方針や目標等を把握・実施出来るよう取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を構築され、毎日朝礼で唱和するなどし、共有を図り、日々の実践に結び付けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から離れた所にある為、つきあいが乏しい。定期的に家族会や運営推進委員会を開催し、理解と協力を求めている。時々デイサービスへのボランティアと一緒に参加させてもらっているが、グループホーム主体では行っていない。	地域から離れた場所に建てられたホームであり、近くには民家もなく、併設のデイサービスを利用する方々との交流を図ることで繋がりを持たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	介護やサービス利用についての相談を承る知らせがあるものの、外部への認知度は薄い。しかし、外部からの実習生の受け入れを行い、様々な認知症の方と関わりを持ってもらう事で、認知症への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、評価や意見、感想を頂き、和やかな雰囲気のもと話し合いが出来るよう場を設けている。取り組み状況の報告をするなど、向上に努めている。	家族代表、自治会長、市役所職員、民生児童委員、消防署員がメンバーとなり、2か月に1回、定期的に開催され、行事報告・予定、広報誌の発行、避難訓練、災害対策、現状報告、その時々話題等を提供され、各メンバーとの忌憚のない意見交換が行われております。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故、入退院の情報を報告している他、電話や訪問にて相談しアドバイスを頂いている。又、運営推進会議へも参加して頂いている。	市役所職員とは事故報告の提出や状況報告によって助言をいただく等し、連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会があり、勉強会を開くなど、拘束が起らぬよう努めている。又、各ユニット内に拘束を行わないことを掲示している。	徘徊のみられる利用者もおりますが、行動を共にされ、一切の拘束は行われておりません。また、各ユニットには、身体拘束を行わない旨の掲示をされ、徹底しております。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会があり、勉強会を開くなど、虐待が起らぬよう努めている。又、各ユニット内に虐待を行わないことを掲示している。		

のしろケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後継人制度への学習の機会はなく、活用力は乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の不安や疑問を取り除けるよう、契約書・重要事項説明書の読み合わせを行い同意を得ている。不明な点については質問を受け、相手の理解が得られるまで説明を確実にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット内に苦情や意見を記入し投函できる投函箱を設置しているが、家族以外に意見を聞く機会がない。他、苦情相談窓口を設置している。	面会時や運営推進会議の場で意見の聴取が行われている他、各ユニット毎に苦情・意見箱を設置され、毎月の状況を知らせる便りにもご意見・ご要望を申し出てほしい旨を伝え、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行ったり、各ユニットミーティングやグループホームミーティング等で意見交換がなされており、出来る限り反映できるよう努めている。	個人面談やミーティング時等で言い出しやすい雰囲気のもと、職員からの意見を聴取され運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面接を行い、個々の不満や考え、やる気を確認している。又、管理者と各ユニットリーダーの連絡を密にし、個々に合った担当や役割を依頼している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者と各ユニットリーダーの連絡を密にし、個々に合った研修への参加を促したり、月に一回の勉強会を開催している。研修の際は、全ユニットでシフトの調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、情報交換をしたり、最新の情報を得ている。又、同系列のグループホームとの内部研修を行い、交流や情報交換からサービスの質の向上へ取り組んでいる。		

のしろケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の要望を取り入れ環境の整備に努める。見学可能な方は、事前の見学を受け入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分にお話を伺い、困っていることや不安なことを軽減できるよう努めている。事前に見学可能な方には、見学を受け入れている。不足点はケアマネから補足して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と捉えず、利用者とスタッフは家族なのだという意識で接する事に心がけている。常に利用者から教わることは多く、今後もよりよい関係を築いていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の悩みや不安は、本人・スタッフの問題と捉え、寄り添い、共に喜怒哀楽を共感していける関係を築けるよう心がけている。常に本人や家族側に立った考え方を忘れず、心と耳を傾けることを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会を受け入れたり、馴染みの土地へドライブをしている。中には手紙のやり取りをしている方もいる。	友人や知人の面会や電話、便り等によって馴染みの関係を継続されたり、これまでの趣味が継続できるように同行支援される等、優れた取り組みが観られます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時にスタッフが介入し、利用者同士の交流を深め、お互いが励みや、支えになれるような関係作りに努めている。食事や、レク、行事の際は日常生活の状況から、座席や位置を配慮している。		

のしるケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも必要な時は相談に乗れるよう、信頼関係を築いていきたい。その為にも日々家族との連絡ごとや、心づかいに努めている。地域でお会した時は、どうされているか声をかけその情報を共有している。イベント等へ参加を呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話などから得た情報を、日々の申し送りにて徹底し把握するよう努めている。希望が叶うよう、出来る限り検討し実行している。	日々の会話や関わりの中から、利用者の思いや希望を把握され、情報を共有し、支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や、本人・家族との会話の中から情報をお得、本人の理解・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活スタイルを大事にし、その把握に努め、無理する事なく生活できるよう心がけている。その為の申し送りや情報交換を密にし、統一したケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居宅ケアマネ、医療機関から情報を収集し、家族、本人とよく話し合い介護計画を立てている。又、介護チームでミーティングを開催し、意見を聞いて介護計画に反映させている。	初回は、居宅ケアマネ、家族、場合によっては利用者を交え、情報収集に努め、意見や希望を反映した介護計画書を作成され、次回からは、ミーティングによって職員の意見を聞き、担当職員が原案を作成し、ケアマネが立案しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護支援経過記録、家族支援経過記録を活用し、一日一日の細かな記録を残すことで、スタッフが同じ情報を共有出来ている。又、介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

のしるケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に消防訓練を行い、指導を受けている。運営推進会議へ民生委員や消防署員も参加して下さっている。近くには協力病院があり、緊急時や定期受診などで協力を得ている。自治会長や災害時非難場所の学校へ協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、もしくは家族の希望を優先し、かかりつけ病院や主治医を選択し、それから適切な処置を受けられるよう対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医等が利用できるように、受診時には付き添いを行う等され、支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師や、同事業所内のデイサービス看護師やセンター長(看護師)へ協力とアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、ドクター・看護師・家族・ケアマネ・介護職員が共に話し合いできる場を設け、早期退院へ向け連携した対応と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの体制は取れていないが、重度化しても、家族・主治医と話し合い、出来るだけ住み慣れた所で、本人・家族の意思を尊重しながら、介護している。繰り返しの話し合いから、方針を共有している。	事業所でできることの十分な説明のもと、本人・家族等が納得のいく形で生活が送れるように支援が行われています。また、職員も方針を共有しております。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を実施している。グループホーム内でも緊急時用のマニュアルを作成し、勉強会で取り入れ確認しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、消防訓練を行っている。運営推進会議でも議題とし、自治会長・消防署員からもアドバイスを頂いている。避難先の学校へも協力依頼をしている。	スプリンクラーの設置や運営推進会議に消防署員もメンバーに加わり、アドバイスや訓練が行われております。また、経営者の違うショートステイ棟等が同一敷地上にあり、協力体制のもとで夜間想定訓練予定もあります。さらに、水害対策についての避難先やマップ等による研修も行われています。	

のしるケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録は、鍵の付いたキャビネットで保管し、利用者への言葉かけにはプライバシーを阻害しないよう十分注意している。又、そよ風新聞や写真掲載等は同意を得た方のみとしている。他、必要な物は同意書を頂いている。	個人情報の利用目的を明らかにされ、同意を得た方の写真の掲載や情報提供が行われています。また、プライバシーを損ねることのないように言葉かけが行われておりました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切にし、まずは本人へ希望を問うように働きかけている。食事・衣類・行動のしたいこと、したくないことなど、決定権や選択の楽しみを提供することに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に優先順位を考え、利用者一人一人のペースを理解し、個々が自分らしく生活できる援助に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望がある方は、本人希望の理美容の利用が可能。自分で着たい服の選択を楽しんで頂いたり、日々の身だしなみには気をつけている。又、敬老式など、特別な日はお化粧を楽しんで頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき等、出来る人とは一緒に行い作る楽しさを感じて頂いている。食事は、個々の状態に合わせた形態で提供している。	メニューや食材は、会社から提供されておりますが、各ユニットで調理を行う仕組みをとられ、利用者個々の状態に応じ、できることのお手伝いをいただきながら、一緒に行い、食事を楽しまれておりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事・排泄チェック表を毎日記入し、体長管理に役立てている。又、家族から嗜好や食事に関する習慣の情報を収集する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の機能に合わせた食後の歯磨きや口腔ケアを行っている。就寝前には義歯を外し、洗浄剤につけている。		

のしろケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し定期的なトイレ誘導や声かけを行っている。	在宅では放尿があり、オムツを使用されたい利用者に対し、排泄・行動パターン、仕草等の観察によってトイレ誘導が行われ、トイレの場所の理解から自力での排泄に結び付けた例もあり、優れた取り組みが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のもと下剤を使用したり、乳製品や果物の摂取、適度な散歩や運動を促す等、気持ちよく排泄し失敗を軽減できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていないが、週3回の入浴はできている。その日の体調や状態に応じた対応している。	入浴は毎日でも可能であり、最低でも週に3回は入浴していただけるよう支援が行われています。また、入浴ができない時には清拭が行われ、入りがらない利用者には、行動を観察され、タイミングをみて声掛け誘導が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットや畳、布団等、個々の生活習慣を生かしつつ、現在の身体・体調の具合を考慮し対応している。使い慣れた寝具を使用し頂く等、安眠、休息に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティング等で、定期的に薬の確認を行ったり、申し送りや通院記録、薬局からのお薬情報表を活用している。又、主治医・かかりつけ薬局へ相談やアドバイスを頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を本人や家族から情報収集し、まとめ、スタッフ皆が把握出来るようにしている。その上で、本人の好きなこと、やりがい(洗濯たたみ・畑・音楽等)につなげていけるよう支援している。月に一度、外食や行事を計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	川や海がすぐ近くにあるので、外気浴を兼ね散歩に出掛ける。他、誕生日や希望がある時は外食やドライブへ出掛けている。又、各ユニット独自で行事を企画し、出来る限り希望に沿って外出できるような支援を心がけている。	天候を観ながら散歩や外気浴が日常的に行われ、月に1回は、ドライブや外食等、普段行けない場所に出かける等のされ、楽しまれています。	

のしるケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でいくらか持ち自由に管理している方もいる。実際買い物で使用のお金は、預かり金からの支払いがほとんどであり、月末レシートと台帳を家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に年賀状や郵便物、手紙が届いた時は、返事の手紙を書かれている方もいる。又、定期的に家族へ手紙やハガキを出したり、電話で会話を楽しんでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や換気によって、不快な気持を与えないよう配慮している。又、天井窓からの太陽の光と蛍光灯を生かし、明るい雰囲気作りにも努めている。ソファや絨毯スペース、談話室の和室スペースを設けることで家庭的な雰囲気を作り、環境を整えている。	利用者の写真や折り紙等の作品が飾られ、ソファやテレビの配置の他、各ユニット毎に利用者の状況・希望に応じ、テーブルの配置を変える等、特色を活かし、換気や空調によって適温に保ち、居心地の良い共用空間を作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	廊下へベンチを配置したり、談話室を利用して頂いたり、テレビを見ながら会話出来るようにソファを設置し、利用者同士が自由に過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の要望を家族へ伝達しながら、本人が親しみ、使い慣れた生活用品や家具を持参して頂き、過ごしやすい生活環境作りにも努めている。	本人が居心地良く暮らせるように、畳や絨毯、椅子、筆筒、テレビ等が持ち込まれ、家庭的な感じを醸し出しております。また、窓用カーテンも利用者の持ち込みとされ、各居室の特色が表れておりました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印になる写真や絵等を貼ったり、居室一つ一つには花の名前を付ける等、利用者がわかりやすい工夫に心がけている。		